



# 試験概要

## 1 平成26年度大学入試センター試験の主な変更点

(1) 所持品の扱いについて (→p.42・43, (2) 試験時間中の注意事項)

試験当日の「所持品の扱い」について、以下のとおり変更があります。大学入試センター試験を受験するに当たっては、この「受験案内」と、受験票とともに送付する「受験上の注意」をよく読んで、試験に臨んでください。

○ 時計について (→p.42, ①所持品の扱い, ア)

時計については、辞書や電卓等の機能が付いているかどうかの判別が難しいものを使用している場合、監督者が試験時間中に機能の有無を確認するために、解答を中断せざるを得ないことがあります。静穏な受験環境を保持するため、今年度から、辞書や電卓等の機能が付いているかどうか判別が難しいもの、キッチンタイマーは使用できません。

【昨年度】

時計（辞書や電卓等の機能があるもの・秒針音のするもの・大型のものを除く。）

変更

【今年度】

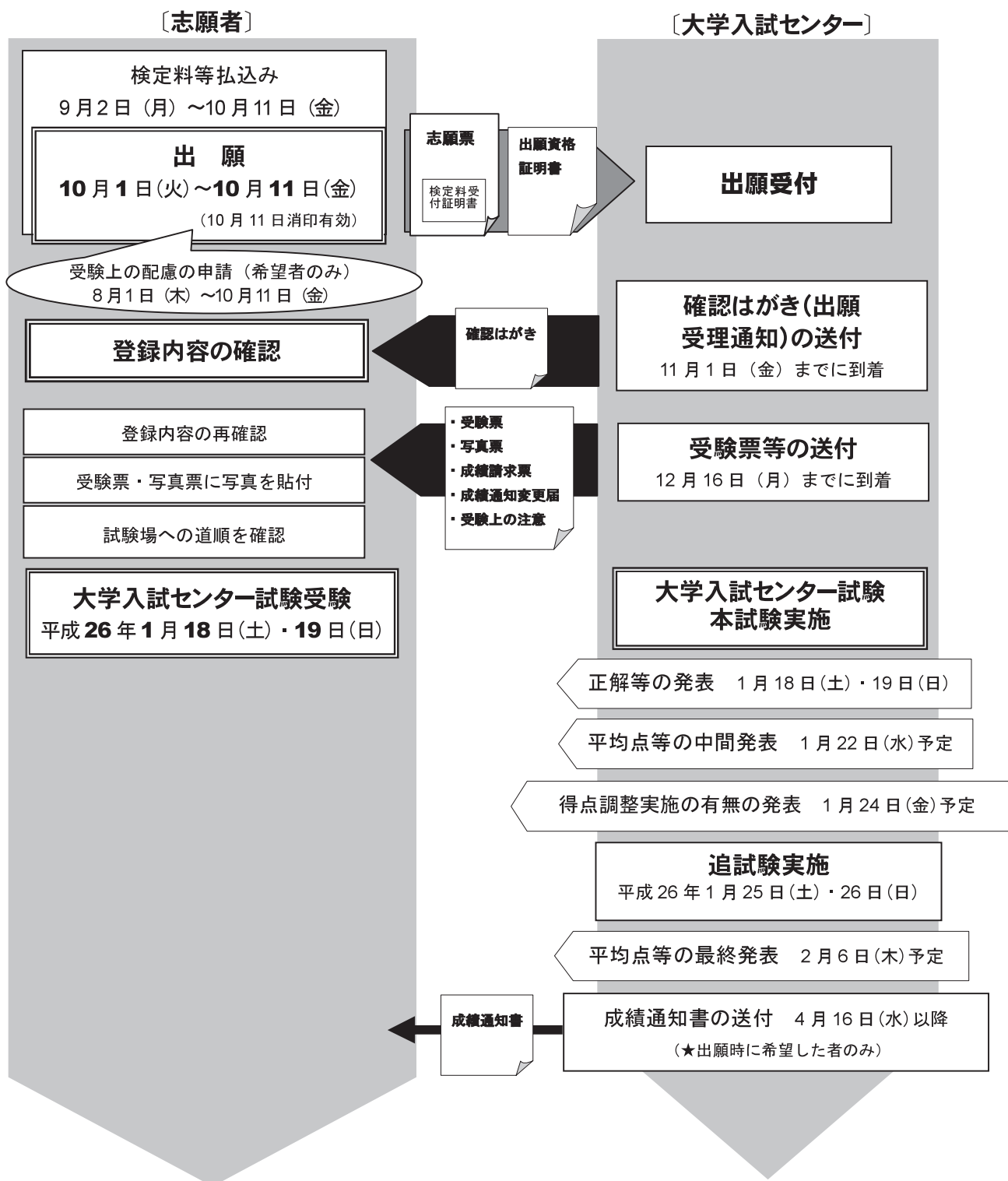
時計（辞書や電卓等の機能があるもの、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものを除く。）

(2) 登録内容の訂正について (→p.23～25)

登録内容を訂正する場合、昨年度は訂正する内容にかかわらず、一つの様式で届け出る必要がありました。今年度は以下のとおり、訂正する内容に応じて使用する様式が異なります。

- ① 氏名、連絡先等を訂正する場合……………「氏名等変更・訂正届 (→p.32)」を使用。
- ② 登録教科等を訂正する場合……………「登録教科等訂正届 (→p.25)」を使用。
  - ・登録教科等訂正届を提出する際は、「確認はがきのコピー」をはり付ける必要があります。
  - ・受験教科数が「2教科以下→3教科以上」又は「3教科以上→2教科以下」となる場合は、再度、変更後の検定料を払い込み、「検定料受付証明書」もはり付ける必要があります。

## 2 平成 26 年度大学入試センター試験実施日程



### 3 出題教科・科目等

教科	グループ	出題科目 (→注1)	出題方法等	科目選択の方法	試験時間(配点) (→注2)
国語		『国語』	「国語総合」, 「国語表現Ⅰ」の内容を出題範囲とし, 近代以降の文章, 古典(古文, 漢文)を出題する(→注3)。		80分(200点)
地理歴史		「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」		左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し, 解答する。 ただし, 同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない(→注4)。 なお, 受験する科目数は出願時に申し出ること。	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点) (→注5)
公民		「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 『倫理, 政治・経済』	『倫理, 政治・経済』は, 「倫理」と「政治・経済」を総合した出題範囲とする。		
数 学	①	「数学Ⅰ」 『数学Ⅰ・数学A』	『数学Ⅰ・数学A』は, 「数学Ⅰ」と「数学A」を総合した出題範囲とする。	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し, 解答する。	60分(100点)
	②	「数学Ⅱ」 『数学Ⅱ・数学B』 『工業数理基礎』※ 『簿記・会計』※ 『情報関係基礎』※	『数学Ⅱ・数学B』は, 「数学Ⅱ」と「数学B」を総合した出題範囲とする。 ただし, 次に記す「数学B」の4項目の内容のうち, 2項目以上を学習した者に対応した出題とし, 問題を選択解答させる。 〔数列, ベクトル, 統計とコンピュータ, 〕 『簿記・会計』は, 「簿記」及び「会計」を総合した出題範囲とし, 「会計」については, 会計の基礎, 貸借対照表, 損益計算書, 財務諸表の活用の4項目の内容のうち, 会計の基礎を出題する。 『情報関係基礎』は, 専門教育を主とする農業, 工業, 商業, 水産, 家庭, 看護, 情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲とする。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し, 解答する。 ただし, ※が付された科目の問題冊子の配付を希望する場合は, 出願時に申し出ること。	60分(100点)
理 科		「理科総合A」 「理科総合B」 「物理Ⅰ」 「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」 「地学Ⅰ」		左記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し, 解答する。 なお, 受験する科目数は出願時に申し出ること。	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点) (→注5)
外国語		『英語』 『ドイツ語』※ 『フランス語』※ 『中国語』※ 『韓国語』※ (→注6)	『英語』は, 「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を出題範囲とする。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し, 解答する。 ただし, ※が付された科目の問題冊子の配付を希望する場合は, 出願時に申し出ること。	【筆記】 80分(200点) 【リスニング】 (『英語』のみ) 60分 (うち解答時間30分) (50点)

(注1) 本表中において『』で記載しているものは, 2つの科目を総合したもの又は2つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだ出題科目です。

(注2) 国語, 理科及び外国語(『英語』を除く。)は, 各教科について1試験時間とし, 地理歴史及び公民については, 合わせて1試験時間とします。数学は, ①及び②の出題科目のグループごとに, 外国語『英語』は, 筆記とリスニングに試験時間を分けます。

- (注 3) 『国語』の出題分野別の配点は、「近代以降の文章(2問 100点), 古典(古文(1問 50点), 漢文(1問 50点))」とします。なお、国語の出題分野のうち、大学が指定した分野のみを解答する場合でも、国語の試験時間は80分です。
- (注 4) 地理歴史及び公民の「科目選択の方法」欄中の「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「世界史 A」と「世界史 B」, 「日本史 A」と「日本史 B」, 「地理 A」と「地理 B」, 「倫理」と『倫理, 政治・経済』及び「政治・経済」と『倫理, 政治・経済』の組合せを指します。
- (注 5) 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において「2科目受験する」と登録した場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行いますが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とします。
- (注 6) 外国語において『英語』を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を解答してください。リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行いますが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は60分となります。なお、『英語』以外の外国語の筆記を受験した場合、リスニングを受験することはできません。

## 4 試験期日・試験時間割

期 日	出 題 教 科 ・ 科 目		試 験 時 間 (→注 1, 2)
平成 26 年 1 月 18 日(土)	地理歴史 公 民	「世界史 A」 「世界史 B」 「日本史 A」 「日本史 B」 「地理 A」 「地理 B」 「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理, 政治・経済」	2 科目受験 9:30～11:40  1 科目受験 10:40～11:40 (→注 3)
	国 語	「国語」	13:00～14:20
	外 国 語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	【筆記】 15:10～16:30 ----- 【リスニング】 「英語」のみ 17:10～18:10
1 月 19 日(日)	理 科	「理科総合 A」 「理科総合 B」 「物理 I」 「化学 I」 「生物 I」 「地学 I」	2 科目受験 9:30～11:40  1 科目受験 10:40～11:40 (→注 3)
	数 学 ①	「数学 I」 「数学 I・数学 A」	13:00～14:00
	数 学 ②	「数学 II」 「数学 II・数学 B」 「工業数理基礎」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	14:50～15:50

- (注 1) 試験室への入室時刻については、受験票(→p.26)とともに送付する**受験上の注意**において指示します。
- (注 2) 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認めます。ただし、リスニングは、試験開始時刻(17:10)までに入室していない場合は受験することができません。
- (注 3) 「地理歴史, 公民」及び「理科」の試験時間については、登録した科目数(1又は2科目)によって試験開始時刻が異なります。  
なお、「2科目受験する」と登録した場合は、遅刻者の試験室への入室限度である9:50までに入室しないと、後半の第2解答科目を含めて、その試験時間は一切受験することができません。また、第1解答科目と第2解答科目の間の10分間は、トイレ等で一時退室はできません(→p.42)。